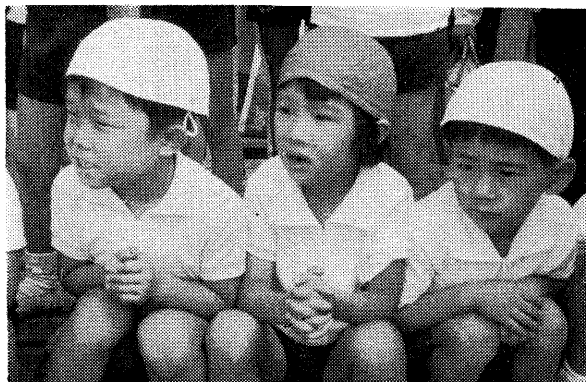


手先の動きと子どもの感情①



清水エミ子

手って だれがかんがえたのかな。

ゆびが五本でみんなちがってる。

ながさがちがって みじかいじゅんじゃなくて。

ふとさがちがって まがるところもちがう。

よくはたらくゆびと はたらかないゆびがある。

おやゆびとひとさしゆびとなかゆびは いつもはたらいっている

けど くすりゆびとこゆびは あんまりはたらかない。

ひらべったいところは おさらのやくめをするときもある。

手って ほんとおもしろい。

おいしゃさんで ちゅうしゃされるとき とってもかたく手を

にぎっていると あんまりいたくない。

はりやる(きす)ところはうえだけど 手をにぎっているといた

くないの。

しらないまになめちやうときがある ひとさしゆびなの。

せんせいにいわれると ひとさしゆびなめちやうの あたし。

どうしてだか知らないけど なめちやうの。

あのひとは いっぱんばし(平均台)やるとき 手のゆび み
んなひろげてやってる こわそうにして。

ひさしくんは げんこつにぎってわたった。おんなじぐらいこ

わそうなかおしていたけど ひらいたのと げんこつじゃ どっ
ちがこわいのかしらね。

あたしは おっこちそうになると うわっぱりつかむの。そう
すると おっこちなくなるの。おっこちるの とめるのよ。

おかあさんにおこられて かっぼうぎぎゅうっ、つかまえたど
き手のせなかが まっかになってた。

おかあさんが どこかにいったらたいへんだから 手のせなか
が とつてもちからをいれて まっかになっておきえてくれたん
だね。

はなしたら 手のなか(ひら)のほうまであかくなって ちか
らいててくれたの。だからおかあさんどっか いかないで ぼ
くのおかあさんでいてくれるの。

手がかせいしてくれてよかったんだよ。

あたし三かいもくれよん おっことしちゃったのいま。

もったわけなのよ ちゃんと。

ゆびでつまんだわけなのに つるりって おっこっちゃった
の。

ゆびが あたしがえをかくの うっかりしてたのね。

でも もったのよ ちゃんと。それでポロンとおこったの。

ゆびが びょうきになったのかしら。

さきつちよには しらせがなかなかいかなかったのかしら。

こんどから ゆびのさきに さきにしらせてから くれよん
つかおうと。

入園してくる子どもたちの手は、私たち保育者に、いろいろの
ことをおしえてくれる。

眼は口ほどにものをいい、というが、私は手は口ほどにものを
いいといいかえてもよいのではないかと思うほど、子どもたちの
手、子どもたちの指先は、いろいろのことをかたりかけてくれ
る。

指先に、全身の神経を集めて、いろいろのことをやっているの
だ。指が、手が、手の平が、いろいろの表情を表わしていること
に気づく。

休むことなく動きまわる子どもたちの指、砂のひとつぶをつま
んでいる指と手。

しわをつけないように、重なった紙から一枚をとろうとする時
の指と手。

自分の体より大きなものを作ろうとする時の指と手。

その時々によって指の動き、表情がちがう。もちろん、子ども
たちの表情と合わせて観察しなければならないが、もっとも

子どもたちの指や手の表情をみつめて、指導助言に役立てなくて
 ほと気づいたのだ。

手先がきよう、ぶきよう、ということや、右利き、左利き、な
 どで、大まかにあつかわれすぎていた指と手を、もっどこまか
 く、正しくみなおす必要をつよく感じる。

一、不安な時の手と指

ようこちゃん なにかおはなしするとき いつでもうわっぱり
 のしたをくちやくちやく
 にもっていうね。あの
 ねあのねっていつて
 くちやくちやくちやく
 ちやくちやくちやく
 くせになっちゃったの
 かな。

不安だから 何かに
 すがりたい、何かによ
 りかかりたいという手
 のさげびなのだ。おと
 なだって、きんちょう

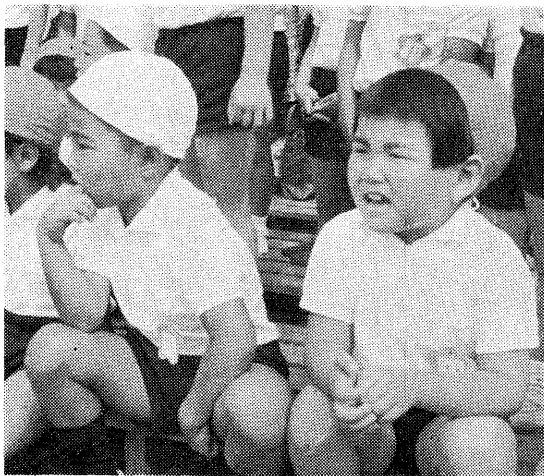


写真① 気楽な場面でのA君の手

して話をする時、ハンカチーフをにぎったり、いじったりして話
 をしないとドキドキしておちつかない人もいる。それとおなじな
 のだ。

友だちの前で話をする時のようすを、そして指や手をみている
 と、かならずいろいろの表情をしている。

ものをにぎるのでなく、上着の一部を手の平や指のはらで、か
 るくかるとなぜながら話したりする。せいイチ君は、友だちに話
 しかけようとする時や何かやりはじめようとする時などは、机を



写真② 不安な場面では指を口に入れている

なぜながら「あのね、あのー、これこうやろうか」と、いうようにことばがとびだす。手もことばの一部なのだ。

左の人さし指を、右の手の平でぎゅっとにぎると考えがでてくる、ひろやす君。

「えーと、えーと、どうしようかなあー、わからないなあー」といいながら、左の人さし指をにぎっている。だいぶ力をいれてにぎっている。

自分の指をにぎることで、不安が解けるのだ。指をにぎっている間に、心がおちついてくるのだ。そして次への前進がはじまる。

しかられた時や友だちとけんかをして泣かされた時の不安の指は、手の平をバツとひろげて力をいれてこわがっている手、不安を通りこしておそれを感じている時などは、うでのつけねのところにから力を入れて、手の平を開いている。

手をつっぱっているとといった感じになっていることもある。

けんかして友だちにぶたれるのをふせぐときの手や指もさまざまだ。これは手の先より、うでをつかかってふせこうとしている。

ほそい、やわらかい手先をまもってうでをつかおうとしているのだ。

ものをなげられそうになったときは手の平を相手の方に向けてふせぐ。

このふせぎかたも高さによってちがう。

二、いやな時、きもちのわるい時

よく にゆるにゆるしたものに よわいんだ。どうもきらいだよ。

あたし ちいぢやな虫ってとつてもきもちわるいの。かわいいけどいやなの。

いやなにおいがする木の葉 いや いや これ近づけないでよ。

こんなことをいっている時の指先は、きんちようして赤くなり、やや、ふるえている子もいる。

あたし いやなもの さわろうとすると あたしのゆび いやがつて 上むいちゃう。そっちゃうのよ。あたしは さわろうとするんだけどね。どうしてかしら。

そのとき ママがいつてたけど とつてもゆびが かたくなっているんだってね。

いやだよ きもちがわるいからって ちからいれて いやがつてるのね。

こないだ けむしのせなか さわってみようとしたときも 上

むいていたの。

このように自分の意志に反したうごきをすることがあるのが指なのだ。ちがうよといっているのが、指の先。

さわろうかさわるのよそうか、まよっている時の指先は、たいへんこまっつてふるえたり、まっかになったり、かたくそっくりかえったりしている。

やわらかいか、かたいか、ためすとときの指は、もう少し気がするになっている。

人さし指をのこした他の指をかくくにぎって、さわってみようとするものにちかづき、そしてたしかめるしゅんかんに力が入る



写真③ 仮装した人が近づいた時いやなものを手全体ではらいのけようとしている

のだ。

しゅんかんきんちょうする指先の顔は、たのしみながら不安を共にしているという表情でもに向かっている。

きたないものをはらいのける時、指先のほらをつかってはらいのける。

一本の指でたりる時は一本指で、たりない時は、人さし指と中指とくすり指をつかってもすごいスピードではらいのける。

このようにいやなことは、自分の大切な指のほんの一部をつかっつてやろうとしている。さわりたいくないといっているのだ。

でも、さわらなければならぬので、いやいやほんの少しの指でしよりにしているのだ。

あまりいやでないものをはらいのける時は、手のひらのよこはら、小指のよこをつかっつてはらいのけたり、手の平全部をつかっつて、ゆっくりはらいのけていく。

手の平を、べったりつかう時は、きもちがあまりわるくないよといっている時。

不安な、いやなきもちは指の先で表わす。

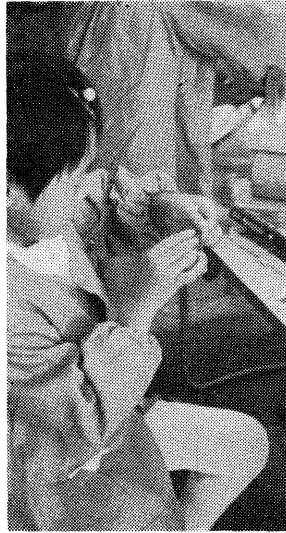
三、こまっつた時、どうしようかまよっている時の指と

手

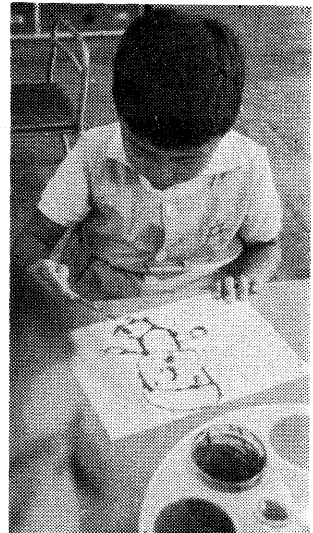
何か作ろうとしている時、はじめて出会った教材などを前に、



写真⑥
指の先がきんちょうしている



写真⑤
不安なので指の先だけで



写真④ はじめての教材
右手は不安げに筆を左手
はしっかり紙に

どうしてよいかこままってしまった時、顔の表情より先に、指先が反応している。

指の先を、ブルブル、ブルブルうごかしはじめたり、机の一部を、カリカリかきむしったり、つめの先でかみの毛をいじったり、指が先に反応して他にしらせる。

ぼく しんばいなの。しっぱいするとこまるんだもの。いやなのしっぱい。

いやだとおもうと ひとりでゆびがふるえてきちゃうの。だからよけいへたになっちゃう。

このように指の先に神経が集まりすぎてしまうのだ。

四、きもちがよくてのんびりしている手と指

みてごらん ちからちゃんて すぐ手でもってよろこぶの。

いまは手をたたいてよろこんだでしょ。

こないだ たまいれでかったとき手を くみあわせて やったぞやったぞってよろこんでたんだよ。

まりちゃんの手 ぶくっとしてる。

ゆびもまるくて かわいいよ。

まりちゃんよろこんでるとき 手もプランプランとのんびりし

ているみたいだよ。よわくなってるみたいに見える。

テレビみているとき ぼくおしっこして おそくおへやにきたらみんな のんびり テレビをみていたよ。えびさわくんのゆびは ゆっくりまがっていたし ちからちゃん は ひぎのうえにのっけて やすませていた。そのとき 手のせなががちよっぴりもちあがって ひくいやまになってた。

えいじくんは ほったのところにのって ほったのまゝさとおわせた。のんびりしているときのゆびは ゆっくりまがっているんだね。きゆうに キュッとまがっていないよ。

のんびりしているゆびは とつてもやわらかいゆびだよ。

のんびりじゃないときは キュッとまがってかたくなってるんだよ。ゆびっておもしろいでしょ。

えいじくんこのことをきいて、私はびっくりした。

子どもにも、手のそして指の表情がわかってるのだ。

のんびりしている手や指、きんちょうしている手や指を、子どもたちは、子どもたちでみつめているのだ。

じっけん①

ひとり子で、自分から進んで何かやろうとする気力もどぼしく、

神経質で、新しいものに手が出せない、ともたけ君。

・クレオンをにぎっただけで、手全体で、にぎりしめてしまうので、クレオンが動かない。折紙をふたつにかさねて折りまげるのに、五本の指全部をつかかってわしづかみにして紙をかさねようとするので、うまくかさねられずやぶいてしまう。

・うわぎのボタンが、指をこうちよくさせてしまうので、はまらない。

・ぼうしかけにぼうしをかけるのにも、指先に力が入りすぎ、ぼうしがなかなかかからない。

こんなともたけ君の指や手から、私は、はじめてで、こわいんだよ、いったいどうすればいいのさ、という不安のこえと、しっばいするとたいへんだ、ほかの人は知ってるのにぼくだけしらないという、きんちょうの声を聞きとった。そこで、

指に、力が入りすぎてしまっている時は、

・まずその持っているものを一たんな下において、手をあげさせる。

・「先生の手のあたたかさともたけ君の手のあたたかさくらべてみよう」といって保育者の手で、彼の手を、つつみこんでやわらげる。

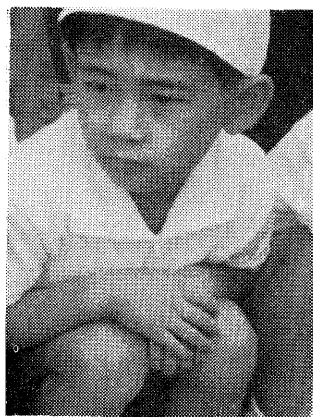
・「おや指も人さし指もなかよしにして、まるをつくってごらん。そのまるの先っちょで、クレオンをつまんで、かみの上をフ

ラフララさせてみましようか」と、何気なくうごかすきっかけをわたしてやる。

・折紙を折る時も、そっと、ともたけ君の手をつつみ込んで、きんちょうをとり、

・「きょうは、おや指と人さし指と中指の三本だけつかいましようよ。この二本はやらせてあげないことにしましょう。あとまわしよ。『さあ三本の指に折紙のはじっこつまんでいいよ』って、あいずして」と呼びかけてつまみ上げさせ、かきねさせる。

ぼたんをはめるときも、「ゆっくりまげた指をまげて、ぼたんをつまんでごらん、ちょっとボタンをひっぱって、とんねるをこぐらしてあげようよ」といったように、指先へのきんちょう、手への不安を、指をみて、手をみて助言すると、子どもたちはスムーズに、手を動かし成功のよろこびを知っていく。



写真⑦ のんびりとにぎる



写真⑧ にぎりのきびしき

写真⑦のように、のんびりもってよい時と、きんちょうしてもつ時(写真⑧)と、手が、指が、はつきりわかって行動してくれようになるのだ。

じっけん②

いやだと、いつでもげんこつをにぎってやろうとしないえいじ君。

どんなこともまじめに考えすぎ、いつでもきんちょうしている。

一度経験したことだと安心してやりはじめるが、はじめての活動は「ぼくいいの、いやなまだ」といって、げんこつをにぎってやろうとしない。

いやなのかげんこつのにぎり方ですぐわかる。少しいやな時は、げんこつはかるくにぎられている。とてもいやな時、こまった時は、これいじょうにぎれないというほど、げんこつはかた

い。
木切れにくぎをうってあそぼう、という活動をした時、えいじ君は、両手のげんこつをこつこつ

ぶつけあわせて、きんちょうして、友だちのするのを見ていた。自分のげんこつをぶつけて、いやがっていたのだが、だんだん活動をしている材料（木切れ）のそばに近づいていった。その時は、片手のげんこつはほどけていて片手のげんこつを、自分の前でぐるぐるまわしていた。

そしてげんこつの片手を、もう一方の手のひらで、つつんでみたり、はなしてみたりしながら、「もっと力いれてうつんだよ」と友だちに口をはさむようになっていった。

こんなぐあいだったので、

「えいじくんのげんこつの中に、このかなずちをもつと、とってもちからが入りそう、やってみない」とかなづちを示してみた。

かなづちをみたたん、また、えいじ君のげんこつは両手になってしまい、かたくにぎりしめられてしまった。

大しっぱい、少しはやく助言しすぎた。

十分位して、また片手がほぐれてらくそうにながめていたの
で、「けんじくんのかなづちのもちかた少し上すぎるから、えいじくん、もう少し下のほうがいいわよって、おしえてあげてよ」とかなづちをそっとわたしてみた。

もった、すごいいきおいで、ギューッとにぎりしめた。

私はそのにぎりしめたげんこつの上から「このへんはちょうどいいわね、きつとよくくぎがうてるわよ」と私の手の平をかぶせ

てみた。

十五分もくぎをうちつづけたえいじ君。げんこつはほどけ、ダラリと手の指から力がぬけていた。

以上、子どもたちの手そして指の動きや表情について、ほんの一部を記してみた。

ちいさなものをつまむ時の指、ほしいものをつかみとる時の指と手……。子どもたちのことばや顔、体全体からの心のよみとりも大切だ。

しかし、見のこしている手、指を、もっともって大切に、保育者はみつめてみるとよいと思う。

私は今、ひとりひとりの子どもと、その子の手と指の動き、表情に、取りつかれ、いろいろのことをたしかめてみたくなっている。

指先から、手のひらから私たち保育者になげかけられているさけびや、かたりかけを、もっともって時間をかけ、まがいなくよみとるくんれんをしなくてはと思う。

そして、そのよみ取りを手がかりに、保育を前進させ、子どもとの交わりをたしかなものにしていく手がかりにしたいものだと思う。